



闇との契約！こんな、私
でいいですか！？



あいね



目次

闇との契約☆	1
--------------	---

闇との契約☆

闇との契約！ こんな私で、いいですか！？

私は、黒川奈緒子。

17歳のJKだよ☆

今、学校から、帰って来たんだぁ！！

さて、放置ゲーがどれだけ、成長したか、

見ないとね！

放置ゲーだけど、やってた方が、パラメータ上がるしね☆

今、戦闘力が166京9249兆、ランキング、3813位☆

いろんなパラメータを、強化↑しないとね。

何とか、1000位以内に入りたいなぁ.....。

ダメ？

「奈緒子ー！ ご飯できたわよー！」

「あ、ママ！ すぐ行く！」

私は、下へ、降りて行きました☆

「今日は、牡蠣のカフェオレ煮よ！ おだしで、味をつけたんだから☆

たくさん、食べてね♪」

「わー！ おいしそう♪」

私は、席について、EX オリーブオイルをかけた！

私、牡蠣って大好きなのよね♪

「んー！ おいしい！！ 幸せ！」

「おかわりもあるから、たくさん、食べてね☆」

「ありがとう！ てへへ♪」

私の家庭には、お父さんは、いないのです。

私が幼いころ、死んじゃって TT
でも、お母さんが、苦勞して、私のことを、育ててくれて。
お母さまには、感謝が、尽きないのでした☆

「行ってきまーす！！」
「気を付けてねー！」

私は、学校へ、向かうことにした。

ローソンがあったので、Lチキを買うことにした。

「なんか、ナナ〇キより、柔らかい気がするのよね……。
どっちもおいしいけど！」

タバスコをかけていただく。
とても、おいしい。
私は、不良 JK なのです☆

学校に着いた。
授業が始まった。
「学校の勉強って、将来必ず、役に立つって、
お母さん言ってたなあ……。
歴史とか、えーごとか！
でも、私は、起業して、お金持ちになりたいな♪」

飛んで、その日の放課後。

「起業には、やっぱりメンタルよね♪
魔術の本、探そ♪」

私は、図書館で、魔術の本を探した。
くー！ 頭が痛い！！

「あった！ これがいいかも♪」

本の題名は、「闇の支配者との契約」だった。

「これで、決まりね♪ ばらばら……、
何々、この世は、悪魔が、すべての権利を握っています。
だから、悪魔に、たましいを売り渡してしまうのが、

いいですだって！

……。

魔神ザルガードに祈りなさい。

あなたの願いは、すべて、叶えられます、だって！！」

私は、ザルガードにお祈りした！

私の願いをすべて、叶えてくださいって！！」

ピカーッ！！

その時、周りが光り、目を開けると、
ペンギンのような、何かが、そこにいた。

「君は……、何??」

「僕は、プリチー・キャノン！ よろしくね♪」

私は、この子を見たとき、一抹の嫌悪を覚えた。

だって、このエッチそうな名前！！

「君は、何をしに来たの!？」

「僕は、皇帝ペンギン！ 君を助けに、来たんだよ♪」

「えー？」

え、何、使い魔!? ずっと、付きまとってくるの!?

嫌だなあ……。

「僕は、君を、サポートするよ♪

徹底的にね♪」

何か、嫌だなあ……。

「それより、感じないかい？

あなたの持つ、闇の力を！」

「闇の力？」

手に力を込める。手から、黒いオーラが出て、

ものすごい力が出るのが、感じる。
そうすると、精神面がもっと、真っ黒になる」

「あー、遊びたい！ 男欲しい！ どうにかならぬかなあ……。」

「自分のしたいことは、すべて、すれば、いいんだよ♪
信じれば、必ずできるからね☆
そのためには、多少の悪いことは、して、いいんだよ♪」

「へー」

私と、キャノン、は、家路についた。
お母さんに、会った。

「何なの、そのペンギンは！
どこから、捕まえてきたの??」
「私のことが、好きなんだって。」
「なるべく、ペットは、飼ってほしくないけど、しょうがないわねえ。
名前は、何て言うの？」
「キャノン」
「え?……、え？」
お母さんは、挙動不審だった。
無理も、無いかあ〜、私もちょっと、嫌だし。

私が部屋で、ゲームをしていると、
キャノンがしきりに、エロ漫画を読んでいた。

「何してるの？」
「女の子のね、お尻とか、おっぱいを撫でてると、
ほんとに触ってるかのような、気持ちになってくるんだ！
これが、気持ちよくて、幸せな気持ちに、なるんだ♪」
「もういい！ 好きになさい！！」

ほんとに、エロいペンギン！ 最低！！

奈緒子たちが、平和に暮らしていると……。

何やら、不穏な気配が！

「ちっ！ あいつの魔力だけは、いずれ、私の脅威になる。

今のうちに、始末しておかなければ！」

……
……………

次の日、

私は、朝ごはんに、パンにミックスチーズをのせて、
焼いて、バジルと、タバスコをかけて、食べました☆

ミックスチーズもナチュラルチーズだから、おいしいしね☆
ああ、暗黒幸せ☆☆

「行ってきまーす！ お母さん！！」
「行っておいで、気をつけていくんだよ！」

私は、いつものように、学校に向かった。
そして、事件は、起こった！

「くっくっく！ 黒魔女エステナ！ お前はここで、
死ぬことになる！」

黒魔女エステナ！ きっと私のことね！

「何の用だよ！ 私は、幸せに暮らしているんだ。
邪魔しないでくれ」

「ところが、そうはいかないんだな。
貴様の魔力は、いずれ、とんでもない値になる。
だから、今のうちに、始末しようと、思ってねえ」

敵襲来！！ 危険！！！！

「はっ！ 貴様ごとき、ザルガード様の力で、
木っ端みじんにしてくれる！！ 私の力で、ねじ伏せてやるわぁ！！」

「いい度胸だ！ やれるものならな！！」

「デススモーク！ 暗黒凄惨煙！」

「うっ……、臭い……」

「この煙は、相手のすべての力を弱体させ、
体をむしばむ猛毒の煙だ！　まずは、じわりじわりとな！」

「憤怒壊滅激流葬！！　そんなものは、もろともしない！！」

私は、間合いをつめ、強烈なボディー・ブローを叩き込む！

しかし、相手の体はぐにゃりと、曲がり、全然効かない！

「この、黒魔女エルバ・デステイン様の力を止められるものは、
いないのさ！」

ライトニングデスレーザー！！

「くそ！！　紫電・壊滅黒龍波！！」

奈緒子は、自分の最強の、必殺技を放った！

しかし……、

ギュイオオオオオン！！！！

黒龍波の力は、飲み込まれ、
デスレーザーの力が増幅し、
奈緒子は、遠くの彼方まで、
吹っ飛んだ！

「ぐああああああああ！！！！」

奈緒子は、ボロボロだった。

「くっくっく！　私の力の前に屈服するがいい。
せいぜい、みじめな、命乞いをするんだな！
はっはっはっは！！」

「か、神さま、どうしたら！

私、神さまのこと、実は、知ってるんだ。
中学生の頃に、神さまのことがすごく好きな

男の子がいて、いろいろ聞いてたから！
もうすぐ場所は、そこしかない！
神さま……助けて！！！！」

ガラ、ガラガラガラッ、ズドーーーーンッ！！！！

その時、天から、稲妻が走り、エルバ・デステインを直撃した！！

ぐあああああああゝ！！！！！！

エルバ・デステインは、消滅した。

破壊された、辺りも修復され、また、いつもの日常に戻った！

「はあ、はあ……よかったあ……、キャノンもない、よかったあ……」

私からは、闇の力は、消えていた……。

「いっただっきまーす！！」

私の今日の夕食はレトルトカレー！
バジルって何にでも、合うよね☆
バージンオイルも、おいしいしね☆
一石二鳥です♪

主は私を広いところに導き出し 私を助け出してくださいました。
主が私を喜びとされたからです。
詩篇18：19

いろいろと、苦難はあったけど、
主は、そのすべてから、導き出して、くださいました☆
主ほど優しい人は、いません☆

この方について行けば、大丈夫☆

私たちは、すべて、清らかだからです♪

アーメン。

あとがき♪

ちょっと、ダークな作品なので、大丈夫かな？
と、思いましたが、何とか、なりましたね♪
サクッと読める、短編小説ですね♪
やってるゲームは、月うさぎの育てかたですね☆
愛するイエスさまと、いつも一緒にいたら、最高ですね☆
あなたの未来に、幸せが、いっぱいありますように☆
神さまからも、あなたのことが大好きだそうです☆
はぁ、イエスさま、大好き！！

アーメン。

2024/3/12

林愛根

参考文献：新改訳2017

☆愛根の音楽倉庫☆

<http://ainemusic.starfree.jp/>

私の作った音楽が、無料でダウンロードできます☆

闇との契約！こんな、私でいいですか！？

著 林愛根

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
